

標 題 : Differential effects of isoflavones and lignans on invasiveness of
MDA-MB-231 breast cancer cells in vitro.
In vitro における MDA-MB-231 乳がん細胞の侵襲性に対する
イソフラボンおよびリグナンの異なった作用

著 者 : P.J. Magee, et al. (英国 北アイルランド アルスター大学 生物医学部
北アイルランド食品・健康(NICHE))

掲 載 誌 : Cancer Lett. 2004 May 10; 208(1): 35-41

要 旨 :

がん細胞の浸潤が転移プロセスで重要な役割を演じる乳がんで、転移は罹患率および死亡率の主な原因である。

乳がん細胞株(MDA-MB-231)のマトリゲルを通じた浸潤に対する、イソフラボンおよびリグナンを含む一団の植物エストロゲンの作用を評価した。

ゲニステイン、グリシテイン、ダイゼイン、エクオール、O-デスマチルアンゴレンシン(O-Dma)およびクメストロールは、細胞浸潤に対して強力な抑制作用を發揮した(例、 $41.7 \pm 15\%$ の抑制 ($P=0.007$) クメストロール($10 \mu M$))。

対照的に、リグナンは浸潤に対して最小限の影響しか發揮しなかった。

植物エストロゲンによって引き起こされる浸潤の抑制は細胞の生存に影響せずに起こったので、これらの化合物の化学予防作用の可能性が強調される。
